

JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	横浜国立大学
研究科名	都市イノベーション学府 都市地域社会専攻
研究科の特色	都市イノベーション研究院・学府は横浜という都市をプラットフォームとする、日本で初めての文理融合型の都市をテーマとする大学院。 https://www.urban.ynu.ac.jp/?page_id=32
プログラム概要	「日本の開発経験」教育プログラムでは、日本の明治維新、さらに戦後復興を経た開発経験を学ぶことを通じ、途上国の今後の開発を担う実務者が、個々の専門性に裏打ちされた見地に加え、国づくりの根幹である開発計画や公共部門のあり方について知見を得ることにより、自国の開発に携われる専門人材を養成する。
「日本の開発経験に関する講義」の概要	<p>「都市交通計画論」</p> <p>都市インフラや地域開発計画、特に都市交通について、日本を中心とした優良事例から学ぶ。ケーススタディとしては、ヨーロッパ、北米、南米、アジアの諸都市を取り上げることが予定している。本講座では、技術協力に必要な政策的枠組みや開発計画手法も取り上げる。また、都市インフラに関連して、地球環境、人口増加、経済危機、モータリゼーションについて討論する。受講生は、実践的な研究課題について学ぶ手法を身に着けることが期待される。</p> <p>「地域計画論」</p> <p>日本の国土・地域開発について、その歴史よりとくにインフラ開発と経済発展、地域・国土の発展の関係性について学ぶ。また、地域開発に関する様々な理論を事例に当てはめながら学ぶ。</p> <p>「都市の地盤防災と地盤環境」</p> <p>都市の多くは平坦な沖積平野に立地し、その表層地盤は軟弱である。中には背後に山地を控え、地震断層に沿うように発達した都市もある。急激な人口増加や社会の変化に対応するために、埋立て・造成による地形改変、河川の改修・付替え・暗渠化、地下水・ガスの汲み上げ、管路の埋設やトンネル・地下街・各種の産業インフラの建設などの行為が表層地盤に対して行われてきた。ゼロメートル地帯に象徴される自然災害への脆弱性など大都市に特有な地盤工学的な課題やそれに関わる研究・技術開発について学習する。</p> <p>「国際支援政策論」</p> <p>開発途上国における貧困と豊かさの問題についての洞察から始まり、近代化、依存、開発と環境、市民の参加といった視点から開発理論を掘り下げる。貧困地域への我が国や他の先進国からの開発援助の経験に基づき、開発後の定常状態社会の意味、消費の歴史、時間や空間の概念を踏まえた発展等の視点を展開する。</p>

	<p>「越境社会と地域」</p> <p>戦後の日本の発展および他国への援助の歴史について越境社会の視点から考察を深める。第二次世界大戦後に設定しなおされた国境が、人々や文化の移動・移転にどのような影響を与えてきたのか、戦後の開発援助の経験との関係も視野に入れて実際の事例から学ぶ。</p>
<p>関連 URL</p>	<p>https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2021&lct_cd=RB00031&je_cd=1</p> <p>https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2021&lct_cd=RC00002&je_cd=1</p> <p>https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2021&lct_cd=RC00057&je_cd=1</p> <p>https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2021&lct_cd=RC00061&je_cd=2</p>
<p>プログラムの魅力紹介</p>	<p>受講生の声：</p> <p>開発途上国である母国にとって、他の地域での成功事例はたいへん参考になるものであり、教員の豊富な経験に基づく事例から、特に交通計画、都市開発計画、地域開発計画において考慮すべき観点について、豊富な事例から多くを学ぶことができる本プログラムの受講をぜひ勧めたい。</p>